

Press Release

報道各位

2020年8月7日

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」開催のお知らせ

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）は、東京国立近代美術館で開催された展覧会「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」（2019年度）の巡回展を開催します。

本展は「窓」からインスピレーションを得た、近代から現代にいたるまでの多くのアーティストや建築家の作品に光を当てます。「窓」を通して、新しい世界の眺め方を促す本展の在り方は、アートを通して現代社会を見据えてきたMIMOCAの理念に共通します。

このことから、当館では大規模な巡回展を開催することとなりました。

プレス関係の皆様には広く告知いただきたく、お願い申し上げます。



東京国立近代美術館での展示風景

【お問い合わせ先】
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
企画展担当：松村 円 広報担当：奥本末世
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
www.mimoca.org E-mail. press@mimoca.org



■本展について

身近にあって私たちの生活に欠くことができない窓。四角い枠で世界を切り取って私たちに見せてくれる窓は、同じく四角い枠で囲われた、ここではない世界をもたらす絵画と深い関係にあると考えられてきました。時代が下るにしたがって、写真や映像、インスタレーションにも同じ関心が引き継がれています。

また建築の分野では、気候風土に合わせた工夫や技術の発展、美的な配慮が、各時代や地域にさまざまな窓を生み出してきました。

本展では、一般財団法人 窓研究所による知見を得て、ボナールやクレーの絵画から現代美術まで、窓に関わる美術作品をご覧いただくとともに、ル・コルビュジエ、カーンなどの建築家の貴重なドローイングもあわせてご紹介します。ジャンルを横断して広がる窓の世界をお楽しみください。

■本展の見どころ

本展では、絵画、写真、版画、映像、インスタレーションなど、ジャンルを超えた約100点の作品を11の章に分けて紹介します。

1章－2章

展覧会はバスター・キートンの名作映画《キートンの蒸気船》の印象的な一場面から始まります。続く2章では、東北大学 五十嵐太郎研究室による壮大な年表によって、古代から現代にいたる、建築と美術そして窓の歴史が紐解かれます。さらに、ル・コルビュジエなどの建築家による貴重なドローイングや、1600、1700年代に書かれた建築の貴重書などを出品します。



ル・コルビュジエ《内装スケッチ——窓》20世紀 カナダ建築センター蔵

Canadian Centre for Architecture, © F.L.C./ ADAGP, Paris & JASPAR,

Tokyo, 2020 G2287

3章－4章

「窓の20世紀美術Ⅰ、Ⅱ」として、具体的に窓が登場する作品と、四角が並ぶ抽象絵画などを展示します。ピエール・ボナールの絵画やヴォルフガング・ティルマンズの写真に登場する窓は、窓の外にある違った世界を室内に開いて見せます。一方、パウル・クレーの作品に描かれているように、抽象絵画の四角や格子は窓の形と通じます。平面でありながら色や形の構成によって三次元にも見えてきます。



パウル・クレー 《花ひらく木をめぐる抽象》1925年
東京国立近代美術館蔵

5章-8章

内と外の間であって二つの世界をつないだり遮ったりするものとして窓を取り上げた作品を紹介します。

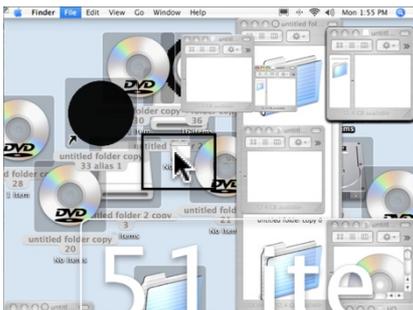
男子修道院と女子刑務所を撮影した奈良原一高の〈王国〉、西京人による、架空の都市国家である西京国への入国をとりまくインスタレーション《第3章：ようこそ西京に——西京入国管理局》、ポーランドを代表する作家の一人、ユゼフ・ロバコフスキが22年間にわたり自分が住む高層アパートの9階の窓から撮り続けた映像作品《わたしの窓から》などを出品します。



奈良原一高 《〈王国〉より 沈黙の園 6》1958年、東京国立近代美術館蔵
© IKKO NARAHARA

9章

20世紀には、絵画に代わって、テレビやビデオ、パーソナル・コンピューター（PC）といったスクリーンが、違う世界を見せてくれるものの主流となりました。9章では久保田成子のビデオ彫刻や、一つのデスクトップ上の複数のフォルダやファイル、ウィンドウを題材にしたJODIの映像作品などを紹介します。



JODI 《My%Desktop OSX 10.4.7》2006年、作家蔵

10 章

空気や光ではないものを通したり、暑さ寒さの調整といった窓のもつ機能を取り払って構造だけを利用した作品はどこかユーモラス。「窓の運動学」としてご覧いただきます。THE PLAYの破天荒なプロジェクトやスイスの大御所、ローマン・シグネールの作品などを展示します。



ローマン・シグネール《よろい戸》2012年、作家蔵

Photo: Michael Bodenmann © Roman Signer, Courtesy Hauser & Wirth

11 章

最後の章では山中信夫のピンホール・カメラによる作品と、同手法を用いたホンマタカシによる〈Camera obscura – thirty six views of mount fuji〉を出品します。暗い部屋の壁に小さな穴=窓を開けると、そこを通る光によって対する面に外の世界が映し出されて仮想の窓が出現します。



ホンマタカシ《Camera obscura – thirty six views of mount fuji Waseda, 2019》
2019年、個人蔵

© Takashi Homma, Courtesy of TARO NASU

■開催概要

展覧会名 | 窓展：窓をめぐるアートと建築の旅

主催 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、
東京国立近代美術館、一般財団法人 窓研究所

助成 | スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団

後援 | 在日スイス大使館、ポーランド広報文化センター

学術協力 | 五十嵐太郎（東北大学教授／建築史・建築批評家／「窓学」総合監修）

会場 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会期 | 2020年10月13日(火)～2021年1月11日(月・祝)

開館時間 | 10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日 | 月曜日（祝休日の場合はその直後の平日）、年末12月25日から31日

入館料 | 一般950円(760円)、大学生650円(520円) 常設展の観覧料含む
高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※()内は前売り（企画展のみ）及び20名以上の団体料金

同時開催

常設展「猪熊弦一郎展」

入館料：一般300円（240円）、大学生200円（160円）※企画展の観覧料は別途

■関連プログラムについて

ギャラリートークやワークショップなど展覧会の関連プログラムについては、新型コロナウイルス感染症の状況を確認の上、開催の判断をいたします。開催にあたっては改めてプレスリリースにてお知らせいたします。

■一般財団法人 窓研究所について

一般財団法人 窓研究所は、「窓は文明であり、文化である」の思想のもと、建築文化の発展に寄与するべく、窓や建築に関する多角的な知見の収集・発信に取り組み、研究や文化事業等の助成、開催をおこなう財団法人です。

窓研究所は、過去10年にわたり独自に研究活動を実施するに留まらず、国内外の研究機関、美術館等との連携により、建築、文化、芸術などの分野における国際的な取り組みを展開しています。

公式サイト：<https://madoken.jp>

■ 広報用画像について

出展作品の画像を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は下記 URL からお申し込みください。

<https://www.mimoca.org/ja/press/>

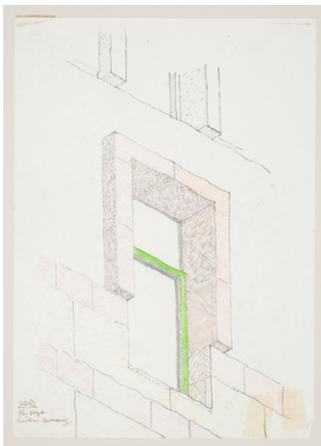
画像一例



ヴォルフガング・ティルマンズ 《windowbox (47-37)》2000年
ワコウ・ワークス・オブ・アート蔵



岸田劉生 《麗子肖像(麗子五歳之像)》1918年
東京国立近代美術館蔵



ジェームズ・スターリング/マイケル・ウィルフォード 《ベルリン科学センター》
(ドイツ、ベルリン) 窓詳細図、1979-1987年、カナダ建築センター蔵
James Stirling/Michael Wilford fonds, Canadian Centre for Architecture